

交通系ICカードの導入状況

□ 10カード(全国10エリアで相互利用可能)・・・Suica、ICOCA、nimoca 等



平成25(2013)年3月から全国相互利用開始

□ 地域独自カード(全国37種類)・・・NORUCA(福島)、りゅーと(新潟)、IruCa(高松) 等



交通系ICカード導入のメリット

①利用者のメリット

- 域内旅客の利便性向上・・・乗換の負担軽減、高齢者・障害者割引
- 域外旅客・訪日外国人旅行者のバリア解消・・・不慣れた土地での切符購入が不要

②交通事業者のメリット

- 多様かつ高度なサービスの提供・・・各種割引や電子マネー機能の搭載
- 運用負担の低減等・・・定時性の確保、人的負担の軽減、正確な運賃収受
- 収益改善への貢献・・・切符等発行コストや機器の保守・メンテナンスコストの削減
- ODデータの活用による生産性の向上・・・運行経路や人員配置の改善

③地域社会のメリット

- 地域経済活性化・・・総合的な地域サービスカードとしての活用
- シームレスな公共交通・・・海外・都市部との「対流」促進、訪日2,000万人時代への備え

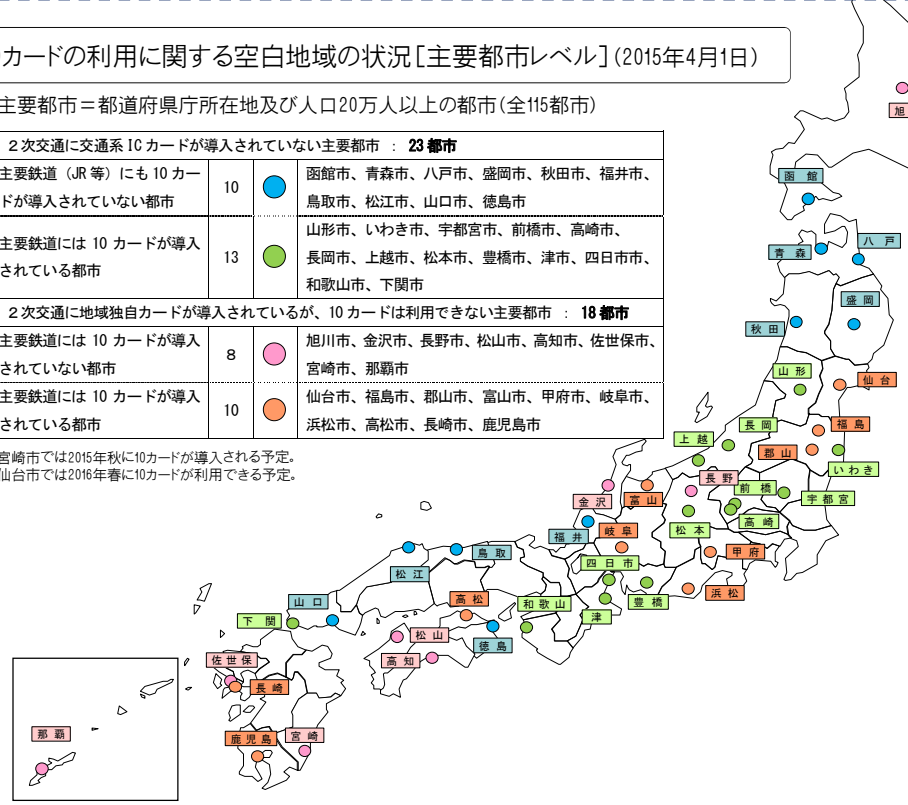
10カードの利用環境整備による幹線交通と地域交通のシームレス化の実現

10カードの利用に関する空白地域の状況[主要都市レベル](2015年4月1日)

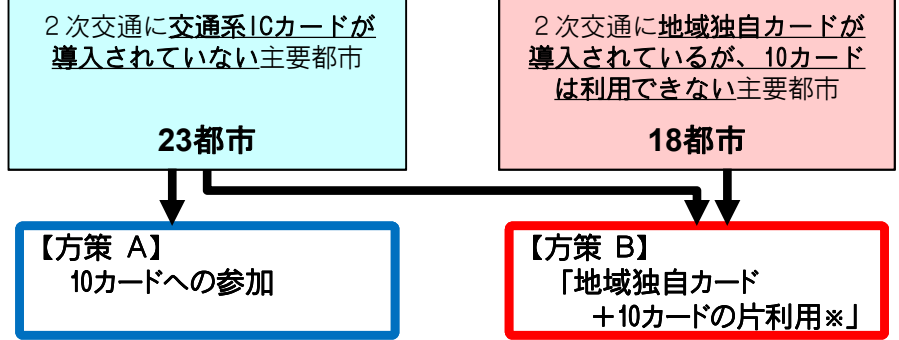
※主要都市＝都道府県庁所在地及び人口20万人以上の都市(全115都市)

| (1) 2次交通に交通系ICカードが導入されていない主要都市：23都市 | | | |
|---|----|---|--|
| ①主要鉄道(JR等)にも10カードが導入されていない都市 | 10 | ● | 函館市、青森市、八戸市、盛岡市、秋田市、福井市、鳥取市、松江市、山口市、徳島市 |
| ②主要鉄道には10カードが導入されている都市 | 13 | ● | 山形市、いわき市、宇都宮市、前橋市、高崎市、長岡市、上越市、松本市、豊橋市、津市、四日市市、和歌山市、下関市 |
| (2) 2次交通に地域独自カードが導入されているが、10カードは利用できない主要都市：18都市 | | | |
| ③主要鉄道には10カードが導入されていない都市 | 8 | ● | 旭川市、金沢市、長野市、松山市、高知市、佐世保市、宮崎市、那覇市 |
| ④主要鉄道には10カードが導入されている都市 | 10 | ● | 仙台市、福島市、郡山市、富山市、甲府市、岐阜市、浜松市、高松市、長崎市、鹿児島市 |

※宮崎市では2015年秋に10カードが導入される予定。
※仙台市では2016年春に10カードが利用できる予定。



<空白地域解消に向けた方策の方向性>



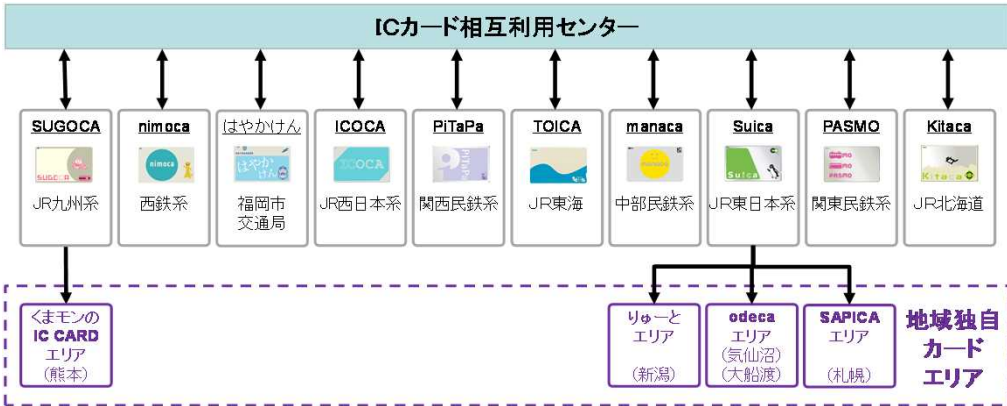
→ 各地域が両方策の特性を勘案しつつ、比較衡量しながら導入を図ることができるような枠組み作りを推進する必要

※10カードの片利用＝地域独自カードの導入エリアで10カードを利用できるようにする仕組み

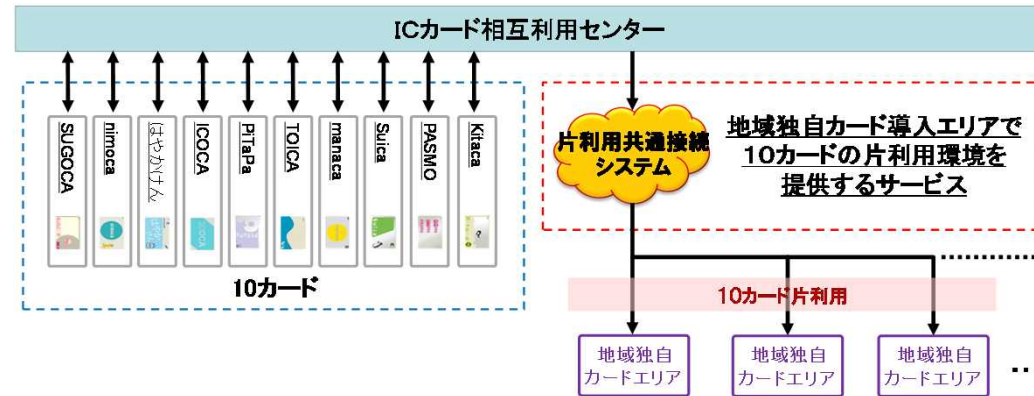
課題の整理と今後の方向性

1. 「片利用共通接続システム」の検討

＜10カードの片利用のシステム概要(現状)＞



＜「片利用共通接続システム」の構築＞



◆「地域独自カード+10カードの片利用」の課題

- ① 10カード事業者のシステムと接続するためのソフトウェアの開発
- ② 接続先となる10カード事業者の選定・調整

- 片利用の共通接続システムを構築し、それを共同利用することで個別事業者ごとの導入費用を削減
- 10カード側とのシステム面での調整等を代行することで、10カードの利用環境の整備を促進

■ 検討に当たっての留意事項 ■

- ・ 10カード事業者の理解・協力
- ・ 運営主体の決定
- ・ 地域独自カード事業者が支払う利用料等の適切な設定
- ・ 地域独自カード事業者の意向の把握 等

今後、関係者間で具体的な検討を速やかに進める

2. 10カードが利用できる環境整備のための諸方策

- (1) 交通系ICカードシステムに係る各種費用の削減（簡易改札機・携帯端末等）
- (2) 訪日外国人旅行者等に向けた周知徹底（特別デザイン、共通ロゴマーク等）
- (3) 地方公共団体をはじめとする地域の関係者との連携
- (4) 10カードの利用環境整備に向けた国の支援措置の充実



簡易改札機の例
(高松琴平電気鉄道株式会社)



共通ロゴマークの例
(無料公衆無線LANの共通ロゴマーク)